

デミングの組織論と米大学、米産学フォーラムとの関わり

オハイオ州立大学で博士号（物理学 1969 年）を取得、1973 年に帰国。その後、東海大学工学部光工学科で長年教鞭をとっていたが、1990 年にサバティカル制度（アメリカの大学でとられている何年か教えれば一年間は大学を離れ勉強できる制度に準じたもの）を利用し、アメリカの大学で研究、教鞭と大学経営を学ぶ機会を持ちました。その当時の私は、大学人としての生き方に自分自身、何かおかしいと思いつけており、新たな学習の機会が心底欲しかったことにありました。1984 年に短期間、コーネル大学のガバメント（公共経営）学部に在籍、その後 1990 年から 1992 年にかけて東海大学を退職し、ジョージワシントン大学のエリオットスクール（国際関係）で教え、テネシー州立大学では、研究担当の副学長とコンピュータサイエンス特別教授につきました。この間に米大学の経営を学ぶ傍ら、優秀な学部の教授等と知り合うだけでなく、コーネル大学ローズ学長、ジョージワシントン大学トラクテンバーグ学長、そしてテネシー州立大学アレキサンダー学長といったアメリカを代表する学長の方々との出会いがありました（特にトラクテンバーグ学長とは生涯の友人として付き合いをしており、アレキサンダー学長もその後、教育省長官を経て上院議員（共和党）につかれています。今も時にお目にかかっています）。

テネシー州立大学副学長の時に、アメリカでは学長と企業のトップがフォーラムを作っていることを知り、米産学フォーラム（BHEF）に出席する機会を得ました。その当時の経験は「デミングの組織論」で簡単に書いていますが、この米フォーラム会合でデミングの名前を知ることになり、デミングの考えを学ぶきっかけとなりました。また、1992 年に東海大学に復帰後、当時経団連会長をされていた平岩外四会長に日本においてもこのようなフォーラムの必要性の話をさせて頂き、その後の日本産学フォーラム発足への動きとなりました。